

橋梁のデザインコンペ： - 大阪ミナミ・道頓堀川のシンボル、戎橋の架け替え整備 -

大阪市建設局 正会員 石田 貢 同 長井 義則
同 正会員 島村 勇次 同 入谷 琢哉

大阪ミナミの中心、道頓堀川に架かる戎橋は、1925年（大正14年）に第1次都市計画事業による耐震対策事業によって鉄骨鉄筋コンクリート橋として架替えられたもので、大阪市内でも有数の古い橋である。



昭和4年当時の戎橋



「戎橋」位置図

長さ 37m、幅 11m と、橋の規模としては決して大きな

橋ではないが、一昨年のサッカーワールドカップ開催時や、昨年の阪神タイガースのリーグ優勝時に、数千人もの人々が橋上で夜を徹し、「道頓堀ダイブ」として放映されるなど、全国的に有名な橋と言える。実際、戎橋は大阪を代表する繁華街ミナミの中心に位置し、普段でも週末には約13万人もの人々が訪れている。

戎橋の歴史は古く、1615年（元和元年）の道頓堀川開削と同時に木橋として架けられたとされている。以降、1878年（明治11年）に鉄橋に架替えられるまでの間、「町橋」として橋周辺の町々によって補修等の維持管理が行われ、町人（地元）主体で管理されてきた経緯がある。

道頓堀川を一跨ぎするアーチ構造や青銅製の格子がはめ込まれた「三連窓」御影石の壁高欄などの重厚なデザインは、当時としては、大変モダンなものであっただろう。しかし、架橋後約80年が経過し、アーチクラウン部の沈下や、コンクリート床板のひび割れ等、主構造の老朽化が著しく、架替え止む無しとなった。

水の都 大阪の再生

江戸時代、大阪は、大坂城を中心に繁栄したが、物資輸送を担う交通路として、道頓堀川をはじめとする堀川（運河）が次々と開削された。その後、戦後の水質悪化に伴う環境問題やモータリゼーションの進展により多くの堀川が埋め立てられた。

しかしながら、最近では、残された貴重な水辺空間を、かつての「水の都大阪」の賑わいに再生する「道頓堀川水辺整備事業」が進められている。道頓堀川の兩岸の水面近くに遊歩道を整備し、歩行者の回遊性を高めることにより、川を軸としたまちづくりを進めるものだが、戎橋の架替は、この水辺整備事業の一環として計画されたものである。

架替えにあたっては、現在の橋に負けない、大阪「ミナミ」の新しいランドマークとして後世に残る橋となるように、「戎橋アンケート」を実施したうえで広く一般から橋のデザインを募集する「戎橋デザインコンペティション」を実施した。

キーワード 橋梁デザイン、アンケート、デザインコンペ、コンクリートアーチ、道頓堀川

連絡先 〒559-0034 大阪市住之江区南港北1丁目14番16号 大阪市建設局土木部橋梁課 TEL 06-6615-6818

戎橋アンケート

アンケートでは、戎橋の印象、感想、思い出、架替えられる戎橋への思いや期待するところについてハガキ、インターネットにより約370人の方から自由回答をいただいた。

その中で、現在の橋に対するイメージについては全体として肯定的な意見が半数を占めていたが、キャッチセールス等の環境改善、防犯の向上、落書き防止等、利用の観点より一部否定的な見解も見られた。

架替後のイメージとしては、歴史、文化性、原風景の評価からイメージ継承を望む声が強い一方、新たなデザイン、シンボル性、新鮮なイメージへの期待も高かった。

戎橋デザインコンペティション

これら戎橋のアンケート結果についての情報提供も行い、ホームページにより、戎橋デザインコンペティションの公募を行った。

コンペには、海外からの6点を含め217点という多数の作品の応募があった。

1次審査においては、アイデア・デザイン・コンセプトより審査し、優秀作品3点を選定した。

優秀作品- は、円形を基本とした橋上広場で劇場性を表現しつつ、広場に沿って巧みにスロープを取り入れることにより、水辺へ降りながら移りゆく景色を眺める楽しさとバリアフリーの双方を考慮した点が評価された。

優秀作品- は、コンセプト中の「都市のSTAGE」というよりも大阪ミナミの”へそ”とでも言いたくなる真円の大広場が特徴で、その大きな張り出しというアイデアが、同時に遊歩道から見上げたときの景観的面白さとなっている点が評価された。

優秀作品- は、アンケート結果の中の”デザイン継承”に最も忠実に向き合った案で、現在のプロポーシヨンの美しさを生かしつつ、技術的裏打ちがなされているという点で評価された。

次に、これら入選者に対してさらに検討を行ってもらい、構造面、実現性の観点から2次審査を行った。その結果、優秀作品- 小野泰明さん（広島市）の作品が最優秀作品に選ばれた。

鋼構造を基本とした桁橋だが、構造面において戎橋の橋長や桁下条件から考えて課題が少ない。

実現性においても3案の中で最も軽量の構造であることにより施工性に優れ、工期が短く、工事中に商店街、橋下の水上利用等への影響が小さいことなどが評価された。

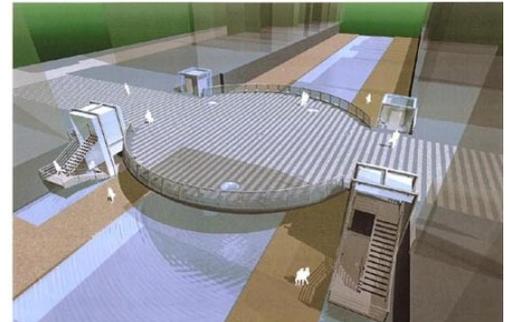
今後、最優秀作品のデザインを基に更なる検討を行い、安全で快適に利用できる、市民・来街者から愛される新しい「戎橋」となるよう、整備を行っていく。（参考）

1) 松村 博：『大阪の橋』 松籟社 1987,5

2) <http://www.road.osaka-city.or.jp/>



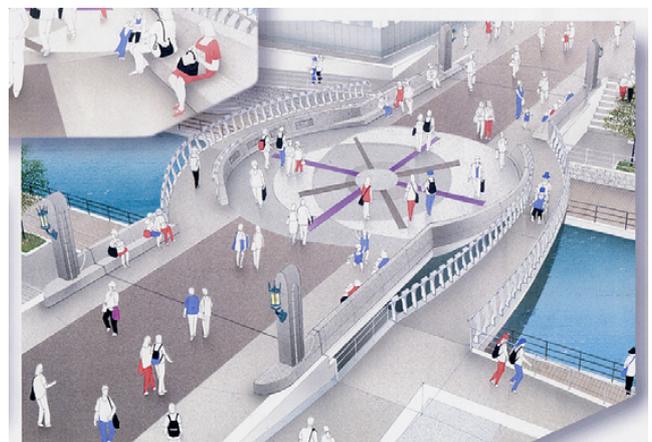
優秀作品- （小野 泰明さん）



優秀作品- （清水 泰博さん）



優秀作品- （西 陽稔さん）



最優秀作品（小野 泰明さん）